

あきる台たいむす

Akirudai Times



さつき薬局

秋川店

0425-58-8416

(あきる台病院すぐ前)

介護用品・一般薬品・保険調剤

月・火・水・木・金 9:00~18:30

土 9:00~13:00

※日曜・祭日はお休みです

発行所



医療法人財団 暁

あきる台病院

〒197-0804

東京都あきる野市秋川6-5-1

TEL (042) 559-5761

FAX (042) 559-8054

2011年(平成23年) 11月 1日

第17号

発行人: あきる台病院(医療福祉相談室)



大津波警報 青森県太平洋沿岸 岩手県

宮城県 福島県 茨城県

岩手・宮城・福島
大津波警報

岩手 釜石
中津

被災された皆様、心よりお見舞い申し上げます。この度の震災を目の当たりにして、私は居ても立ってもいられず、医療支援に参加させて頂きました。新聞やTVを通してしか震災をご存知ない方がほとんどかと思いますが、被災された方々の心の内は、報道で知り得るものよりも遙かに厳しく悲惨です。私が接した被災者の方々の中から1人だけ紹介します。現地の「心の現状」を知って頂ければと思います。



写真と本文は
直接関係ありません

紙面の関係でこのお1人しか紹介できませんし、治療経過も書けません。しかし、私の診た何百人かの方々は、いずれ劣らぬ苦悩を経験されていきました。それは、まだまだ癒えることのない、今後も長く長く続く苦しみです。医療やお金、物資はもちろんのことですが、いかに真心や愛を届けるかが大切だと感じています。皆様にも、この拙文を通して改めて考えてみて頂ければ幸いです。

写真と本文は
直接関係ありません

これが私の最初に受けた相談でした。絶句して涙がこぼれ、掛ける言葉も見当たりませんでした。このお1人しか紹介できませんし、治療経過も書けません。しかし、私の診た何百人かの方々は、いずれ劣らぬ苦悩を経験されていきました。それは、まだまだ癒えることのない、今後も長く長く続く苦しみです。医療やお金、物資はもちろんのことですが、いかに真心や愛を届けるかが大切だと感じています。皆様にも、この拙文を通して改めて考えてみて頂ければ幸いです。

津波に追われ全力で走って逃げた。必死だった。何とか丘に駆け上がり、「これで助かったか?」と後ろを振り返り向いた時、目に飛び込んできたのは、一緒に逃げて来た仲間たち全員が津波に飲まれ、助けを求めて手を伸ばしながら濁流に消えて行く姿だった。呆然と見守るしかなかった。それ以来、夜眠ると毎日同じ夢を見る。「助けて」という声とともにたくさんの手が伸びて来る夢。怖くて怖くて眠ることもできなくなりました。「私は何もできなかった」「今でも何もできない」「私なんて、あの時死んでいれば良かったんだ」死にたい...

これが私の最初に受けた相談でした。絶句して涙がこぼれ、掛ける言葉も見当たりませんでした。このお1人しか紹介できませんし、治療経過も書けません。しかし、私の診た何百人かの方々は、いずれ劣らぬ苦悩を経験されていきました。それは、まだまだ癒えることのない、今後も長く長く続く苦しみです。医療やお金、物資はもちろんのことですが、いかに真心や愛を届けるかが大切だと感じています。皆様にも、この拙文を通して改めて考えてみて頂ければ幸いです。



震災後の心の現状を目の当たりにして...
医療支援に参加して感じたこと

理事長 井村 洋一

3.11 心のケア

あきる台グループホームボランティア募集中
あきる台グループホームでは、お年寄りの方々と楽しく過ごしていただけるボランティアを募集しています。
※詳しくは医療福祉相談室まで

防災委員会の取り組み

当院では3月11日の東日本大震災から、消防や防災に関してより一層の取り組みが必要と考え、「いつ、どんな事態でも、今そこにいる職員が患者さん、利用者さんを安全に誘導できるように!」をスローガンに防災委員会にて取り組んでおります。具体的には、

- ① 防災対策
 - ② 予防管理対策
 - ③ 災害対策
 - ④ 防災教育
 - ⑤ 災害復旧及び地域支援
 - ⑥ 法人内グループの連携
 - ⑦ 非常用物品や非常食の備え
- になります。これらを月に一度(第二月一七時)の防災委員会にて日頃より検討しております。防災対策マニュアルに目的ではありませんが、いかに非常時に冷静に行動できるかのための指針です。

NST (栄養サポートチーム)

医師や看護師、栄養士、薬剤師などで作る栄養サポートチーム(NST)による活動が院内にあり、病棟内の栄養療法が見直されています。病気により食事をとれなくなった患者様が少しでも食べられるよう工夫し、低栄養に陥るのを防ぎつつ治療効果を上げる試みで、栄養補助食品なども取り入れたりしながら、病気に対して専門的アプローチをしていきます。



院長 伊藤 正秀

NSTへの取り組みに院長がひとこと申し上げます。私共あきる台病院のNSTへの取り組みは、職員一同の入院患者様への思いのひとつであります。入院患者様お一人お一人に、今どのような食事がベストなのか、それを考えて取り組んでおります。お一人お一人の病態に合わせた中で、栄養や味、色彩、食形態、食器等に工夫をこらして、毎日毎回の食事を楽しみながら療養生活を送っていただきたいと思います。

当院でNSTが発足し約1年になるうとしています。栄養の改善、低栄養の予防、専門職がさまざまな視点から検討することにより、適切な治療やよいケアにつながっていていることを実感しています。実際に当院のNSTチームから発信された「経管栄養の水先投与や栄養補助食品の活用」により、誤嚥性肺炎の予防や褥瘡の改善などにつながっています。また、別の視点からみた効果として上げられるのは「チーム医療の高まり」と「チームの和」です。この部分が強化されることによってなされる治療やケアの効果も数値化するのには難しいですが、非常に大きいと感じています。今後はMSWとしての専門性を踏まえ、微力ではありますが取り組んでいきたいと思っております。



看護師 仲間 陽子

NSTを介入し食事の喫食率・栄養状態が改善されると、とてもうれしくやりのがあります。



当院では、今年1月より栄養サポートチーム(NST)の活動を本格的に開始しました。NSTとは、様々な医療スタッフや職種を越えて一つのチームを組み、協同で患者様の栄養状態をチェックし、よりきめ細かいケアを行うチームのことをいいます。当院では、院長の呼びかけにより看護師、管理栄養士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーでチームを組み、毎週カンファレンスや勉強会等を行っています。



具体的な取り組み内容ですが、当院では全ての新規入院患者様に対し、スクリーニングを行い一人ひとりの状態を考慮しNSTでの介入の有無を決定し実施しています。そうしたなかで、褥瘡がひどい方、喫食率が悪い方等において、大きな改善がみられませんでした。例えば、食事をこれ以上増やすことが出来ない方に対し、お粥などに粉末のたんぱく質・エネルギー補給食品を利用したり、また市販の栄養強化食品だけでなく、理想的な味・食感を目指し試行錯誤を行った結果、特製ゼリーも完成しました。

また、喫食時間を考慮したり、介助方法を変えたりすることにより効果がみられるようになりました。患者様の抱える問題はそれぞれ異なります。毎回の専門性を持ち寄ることで解決策をみいだすことができました。さらに、今回NSTを立ち上げたことで今まで以上に病院全体で栄養への理解も深まりました。当院のような療養型病院における取り組みは全国的にもまだ珍しく、新しい挑戦でもありますが、今後も活動を続けていくと考えています。

栄養サポートチーム



介護保険の相談は

□ お問い合わせ □
TEL: 042-550-6101



あきる台病院 ケア・サービス

訪問看護・訪問介護・居宅療養管理指導
居宅介護支援・通所リハビリ・訪問リハビリ

確かな技術
快適性
安心

人間ドック



あきる台病院 健診センター

皆様の健康を、心・身・社会の観点から多角的に
チェック・確認し、適切なサービスで支援します

□ お問い合わせ・ご予約はこちらまで □
TEL: 042-559-5449/2943 (直通)